

【資料】

福岡県内で配布された小中高校生用リーフレット「ワンヘルス」

浅川 満彦

酪農学園大学獣医学群 獣医学類感染 病理学分野医動物学ユニット

同 野生動物医学センター WAMC

はじめに

ワンヘルス推進基本条例（条例）を制定した福岡県からの提案で^[1,2]、これに従事する予定の県職員を対象にして、2021年11月に酪農学園大学において野生動物医学関連の研修を実施し、概要を北獣会誌で紹介した^[3]。その事前打ち合わせをした際に、同県が刊行したワンヘルスの理念を敷衍することを目的としたリーフレット3部を入手した（図1）。これらは小学生、中学生および高校生を対象に編纂されたものであり、北海道を含む他自治体で同様な試みをする場合には、参考になるだろうし、我々獣医師が市民に判り易くワンヘルスを伝える場面でも有益である。そのようなことから、今回、簡単に話題提供をしたい。

概要

リーフレットのうち、高校生用は2021年4月に発行されたが、小中学生用の発行年月は未記載であった。また、編集担当部署は、前者が福岡県教育委員会（福岡県獣医師会 監修）、後者が同県保健医療介護部と異なっていた。しかし、その構成は小中学生・高校生用すべて共通で、表紙・奥付を含む8頁、本文では次の6つの項目（ポ

イント）が取り扱われていた；1）人と動物の共通感染症、2）薬剤耐性菌対策、3）環境保護、4）人と動物との共生社会づくり、5）健康づくり、6）環境と人と動物のより良い関係づくり。

特に、小中学生用共通のリーフレットでは、見開き、すなわち、一番目立つ場所に「ワンヘルス」がある場所（野外、学校、街および家）を示していた。「ワンヘルス」は抽象的な考えであるし、一般の児童生徒には、それまでの数年の人生で、「ワンヘルス」まで発想を連結させる経験は少ないだろう。したがって、遊び場となる野原や家庭・学校で飼育される動物、さらに給食や一家で摂る食事などを通じて前述6項目が次々に解説されていた（図2）。このように身近なモノゴトから説き起こしていくことは判りやすいのだが、高校生用の見開きは、いきなり、環境破壊と新興感染症発生の関係や薬剤耐性菌の話題に踏み込んでいた。また、内容も各6項目に関しては、もちろん、小中学生より高度になっている（図3）。しかし、日頃、獣医学類2年生を対象にした講義経験から類推するに、理解してもらえるのかどうか不安になった。ただし、これを読む高校生が、既に小中学生用のリーフレットに目を通していたら理解は容易ではなかろうか。少なくとも、本気で理解したい、あるいは、



図1. 福岡県発行のワンヘルスの理念を敷衍することを目的としたリーフレット表紙（左から、小学生、中学生および高校生を対象に編纂された）